

2011 年

2月21日（月曜日） 丹後は日本海誕生と交流の象徴だ - 「丹後の観光と東アジアの交流」シンポジウム -

本日、世界ジオパーク認定記念として「丹後の観光と東アジアの交流」シンポジウムが観光芸術推進倶楽部の御主催により丹後町で開催された。高浜町国際交流員のパクヨンソンさんやまいづる知恵蔵館長の岡本さんはじめお迎えされて、地元の関係者の皆さんによるシンポジウムだ。池田代表はじめ関係者の皆さんのご尽力に感謝を申し上げます。昨秋、山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定されたことを記念して、ストーリー性のある観光ルートを創りたいとしてディスカッションが行われた。

改めて、山陰海岸ジオパークの特長をみると、日本海が誕生した地球の歴史の過程における地質的な特徴を象徴的に刻んでいることであり、この点、地質的な意味で日本海誕生の象徴、地質のショーウインドウ、博物館である。

このような特長を有する山陰海岸ジオパークであるが、日本海が、丹後を含む日本と東アジア諸国とを環としてひとつながりにして、ともに隣接して地理的には共有されるかのような海域であるため、その日本海誕生の象徴としての山陰海岸が世界ジオパーク認定されたことは、山陰海岸と東アジア諸国との交流に大きなはずみになることは明らかである。

また、丹後地域はかつて日本の歴史の中で丹後王国といわれる日本海兩岸の交流と繁栄の時代があったとされるように、我が国黎明期の文化的玄関、文化のショーウインドウ、博物館である。このことから、丹後地域は、日本海の地質の博物館であると同時に日本海の文化の博物館でもあり、丹後から日本海を巡る地質と文化が世界的な物語性、ストーリーをもって発信できるのである。

加えて、山陰海岸ジオパークは、鳥取県、兵庫県、京都府の3府県3市3町にまたがる地域的広がりを持ち、各地域の取り組みを相互に連携させることで取り組みの何倍もの相乗効果を発揮することも可能だ。東アジア諸国とは、永い歴史の中で広く交流が断続的に行われてきた、大切な絆のある地域。世界ジオパーク認定により丹後と日本海とを巡る地質と文化の物語の魅力も世界的なものとなったわけで、これをはずみに、丹後と東アジアの交流がますます活性化していくよう、関係者の皆さんとともに、努力を尽くしたい。